

学校評価 2023年度 登美が丘カトリック幼稚園

1、本園の教育目標

キリストの愛の精神に基づき、一人ひとりの子どもを大切にしながら、個々のもっている能力を伸ばし、主体的に行動出来る豊かな人間性の基礎育成をめざします。

2、本年度重点的に取り組む目標、計画

一人ひとりの教職員が建学の精神を理解し、カトリックの理念に基づいた教育を行う。どのような社会状況にあっても、子ども時代を子どもらしく過ごせるように保育や環境を工夫する。

3、評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組みの状況
園の建学の精神、教育理念の理解に努め、日々の保育に活かす。	カトリック幼稚園としてカトリック的原理に根ざす教育観をさらに学ぶ場として土曜学校の指導案・方法を様々な書物研修会を通して、また神父さま方のご指導を受けながら、学び分かち合いながら深めていく機会を設けた。
教師一人ひとりの資質向上の為に、しいては園全体の教育の質の向上の為に、園内研修を充実させる。	様々な研修会や研究会に参加して学んだことや全教員年数回の園内研修を通して学んだことを分かち合い共有化を図るようにしてきた。更に成長の姿や今本園にとって必要な課題ををマッピングやKJ法を通して視覚化し、職員で更に子どもの様子を見直し理解に努めた。
就学前教育を理解し、スムーズに小学校に繋がるよう努める。	就学前教育の内容理解を深め、幼稚園に求められる社会的なニーズの変化や小学校に繋がる遊びが学びの研究・研修に努めた。
園の施設、整備、遊具等の安全点検の定期的な確認に努める。	子どもが遊びたくなる環境整備を心掛けてきた。施設、整備、園内外の遊具の安全確認を毎朝、また月に1度項目に従っての点検を行い、危険が予測される場合は、速やかに修理、修繕を行っている。
防災意識を高める。あらゆる安全対策のための体制作りに努める。	年に6回、あらゆる場面を想定した訓練をし、その反省点などを活かした体制作りを行っている。
特別な支援を必要とする子どもだけでなく、園全体がインクルーシブ教育になっていけるよう努める。	自園の特別支援教育士のアドバイスを受けながら、育ちの違いがある子ども達をひとくくりに見るのではなく、総合的な支援に繋がる視覚支援などの工夫を行ってきた。その事を継続し、スモールステップの積み重ねによって、最終的には少ない援助で日々を過ごせるよう園内研修会などで研鑽を重ねている。

4、学校評価の具体的な目標や計画の総合評価

子ども達が主体的に遊べる環境は整いつつあり、保護者の方々にも理解していただけるようになってきた。しかし子どもの体力・体幹の弱さ・実経験の少なさからくる諸課題、また今の子どもたちの状態を知り、学びの場である環境作りの工夫や、保育者自身の感覚を鍛えていく必要があることを課題としていきたい。

5、今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
安全対策の強化	大規模な地震に備えての体制作り、並びに危機管理マニュアルの細分化に努める。
子育ての支援	入園前の子ども達の遊び場や、子育ての相談の有り方を、再度検証し整える。コロナ禍に出産し、孤独な子育てを強いられた保護者の方々の悩みは計り知れない。不安を抱いている保護者の方々をはじめとする、援助を必要としている方々への支援の方法や
子どもの状況・心情を理解し、担任だけでなく園全体の教職員の共通理解を深め、自分で歩みだす姿を見守り支える体制作りを構築する	日々の子ども達一人ひとりの様子を意識して伝え合い、担任だけではない先生の前で見せる何気ない姿等の伝え合いにより、一人ひとりに合った援助や見守り関わる体制を更に検討し合う。
子どもが主体的に遊べる環境の他、育ちに必要な経験が出来る場所や環境を整える	子ども達が主体的に遊ぶ環境作りの更なる見直しと、安全にこだわりすぎて、経験が不足するようなことのないように、子どもの今の現状に合った必要な実体験が出来る環境作りを行なう。また安全を考慮した上で、実体験の積み重ねができるように子どもの現状を把握し合う。
情報の共有、発進の強化	子ども達の状態をより良く理解していただくためにも、保護者の方々によっては、紙媒体だけではなく、動画やドキュメンテーションなどで伝えるようにしていきたい。自分たちが伝えたいと思う事の発信するだけでなく、保護者の方々が知りたいと思われるだろうことを想像した発信を心掛けた
ICTの強化	保育の中に、学びのツールを増やす。個人的・全体的に、あらゆる機器を用いて、視覚化を図り、共有するきっかけを作る。